

令和6年度 第2回 川崎区地域福祉計画推進会議 会議録（摘録）

会議の概要

開催日時	令和6年12月17日（木）午後2時から午後4時まで
開催場所	川崎区役所12階 第1会議室
出席者の氏名	<p>委員 （敬称略）</p> <p>牧岡 英夫 平野 忠雄 小松 繁一 飯嶋 礼子 本橋 勇 寺崎 伸一 山木 春雄 宮田 正行 宮越 隆夫 中島 寛美 石川 直和</p>
	<p>事務局</p> <p>中山 健一（川崎区長） 田辺 智宏（川崎区役所 地域みまもり支援センター所長） 若尾 勇（川崎区役所 地域みまもり支援センター副所長） 早川 雄大（川崎区役所 地域みまもり支援センター 地域ケア推進課長） ミツ橋 愛（川崎区役所 地域みまもり支援センター 地域ケア推進課 企画調整係長） 柴田 佑衣（川崎区役所 地域みまもり支援センター 地域ケア推進課 企画調整係）</p>
	<p>関係課</p> <p>成沢 重幸（川崎区役所 まちづくり推進部 企画課長） 吉川 アズサ（川崎区役所 地域みまもり支援センター 地域支援課長） 金子 幸江（川崎区役所 地域みまもり支援センター 高齢・障害課長） 石田 恭子（川崎区役所 地域みまもり支援センター 保育所等・地域連携担当課長） 石井 和美（川崎区役所 大師地区健康福祉ステーション 地域支援・児童家庭担当課長） 浅川 裕子（川崎区役所 田島地区健康福祉ステーション 地域支援・児童家庭担当課長）</p>
欠席委員（敬称略）	渡邊 嘉行 七條 泰恵
次第	<p>1 開会挨拶</p> <p>2 議事</p> <p>（1） 第7期川崎区地域福祉計画の進捗状況について</p> <p>（2） 地域づくり等検討会の報告について</p> <p>（3） 情報交換</p>
傍聴人の数	0名
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・会議次第 ・川崎区地域福祉計画推進会議委員名簿 ・川崎区地域福祉計画推進会議開催運営等要綱 ・資料1：第7期地域福祉計画 重点項目の進捗状況について ・別紙：令和6年地域包括ケアシステム出前講座一覧 ・資料2：令和6年第2回地域づくり等検討会の報告資料
参考資料	<ul style="list-style-type: none"> ・川崎区地域教育会議だより「らしんばん」

議事要旨

発言者	発言要旨
事務局（早川課長）	川崎区長の中山については、市議会の関係で遅れる。
事務局（田辺所長）	（開会挨拶） 今回の会議では、川崎区における地域福祉計画の重点項目の一部の取組についての現在の進捗状況等の報告をさせていただく。限られた時間ではあるが、忌憚ない意見をいただくようお願いしたい。
牧岡委員	<会議公開について確認> <傍聴者の確認 → 傍聴者なし>
議事（1）第7期地域福祉計画 重点項目の進捗状況について	
事務局（柴田）	議事1および議事2について続けて説明。 （1）第7期地域福祉計画 重点項目の進捗状況について 【資料1】
牧岡委員	資料1について、報告があったが、質問あるいは意見を含めて聞いていきたい。まず事業1地域包括ケアシステムの普及啓発について皆さんの情報はるか。一昨日、老人会に同席して話を聞いたが、出前講座の落語を次呼ぼうかという話が出ていた。どこからか情報が回っており、地域の人たちにも知れ渡りはじめている。
早川課長	昨年度、前課長の依田が社会人落語家だった関係で講座を開始した。今年度からは依田だけでなく、社会人落語家の団体（かわさき落語クラブ）と連携して実施している。どうしても事業説明だけでは人が集まらない。また地域包括ケアシステムを分かりやすくイメージできるような説明を行ったうえで資料に目を通してもらう等の工夫をしている。
中島委員	包括のイベントで講座をお願いしたことがある。地域包括ケアシステムの説明は難しいが、その内容を分かりやすく面白おかしく落語で紹介してくれるため、地域の方の反響もとても良い。老人会等、町内の方たちの中でも予算がそれぞれあるため、無料で皆さんが楽しめるイベント等ありがたいということで、そういったイベントを紹介してほしいという話もよく聞く。そのため、町内の方に落語をご紹介したりもしている。
牧岡委員	事業2についてなにかあるか。今、川崎区の民生委員の欠員等はどのような状況か
山木委員	来期は一斉改選ということで、民生委員を続けるかどうかの意向調査を実施している。まだ集計結果は出ていないが約3分の1は変わるのではないかと考えられる。
早川課長	今年度から事前の意向調査を実施し、希望しない方を事前に把握することで、後任探しに十分な時間を取ろうとしている。これは浜松市で始まった制度を川崎市でも今年から始めたもの。 民生委員の選任については、町内会にご協力いただいているため、民生委員活動を改めて周知するための動画を作成した。動画は町会回覧で周知させていただいて、少しでも理解を深めていただき、民生委員になりたいと思ったださる方が1人でも増えることを願っている。
本橋委員	若い人に民生委員をやってもらっていたが、仕事の都合で難しい。

山木委員	役所からの情報を町内会連合会に流してもらっても、末端の町会長のところまで情報が届いてないという話を聞く。 町内会連合会の役員であれば直接話を聞いているから知っていても、役員ではない人に聞いても、そんな話は聞いていないとなることは多い。
早川課長	今回は町内回覧で 6500 部を配布するので、おそらく届くのではないかと考えている。
牧岡委員	もう 1 つは、地域の側からその民生委員活動を支える風が起きるとまた違うのではないかとも思う。利用者の秘密保持の問題もあるが、あの人は支援が必要だということとはご近所の住人は知っていることも多いので、民生委員の活動を支える地域の活動が広がるといい。ある意味、民生活動が地域に開かれている地域になることも着眼点としては必要ではないか。 私の経験で、関わっていた町内会の役員会で、「民生委員とは結局何をするのか」という発言があり、小 1 時間かけて議論をした。最終的には大事な活動だから、町内会として支えようという話になり、町内会から活動費を出すことになった例がある。 鋼管通 2 丁目の見守り活動は、もともと見守り活動を頑張って行ってくれていた民生委員を町内会として支えたいという思いや、町内会としても、見守りを民生委員任せではなく、取り組もうという思いもあって活動に繋がった。行政と民生委員が孤軍奮闘しているのは伝わっているので、地域の側で支えるような風ができるるとまた少し変わっていくのではないかなと思う。そういうモデルを作ってやっていけたらいいのかなと思う。 続いて、事業 15 についてなにかあるか。
宮越委員	教育地域協議会では、子どもたち対象にして教育というジャンルで活動をしている。夏には、中学生向けに様々な社会体験や職場体験ができるイベントを実施した。その中で子育てサロンの体験メニューも用意しており、前の年も手を挙げてくれた子が友だちを連れてきて今年も参加してくれた。 受け入れを行ってくれた子育てサロンの人たちは、すごく良かったから来年もと言ってくれている。 子どもたちのいい体験が交流になっており、このような取組も含めて、民生委員さんの姿が子どもたちに伝わっていくと、民生委員さんの課題にも少し結びつけられるのではないかなと思う。 あるお子さんの体験の時に、そのお母さんも興味があるということで見に来ていたりもした。
牧岡委員	そのような取組を通じて地域に広がりがあるとよい。 社協で実施しているチャレボラにも子育てサロンがあったかと思うが。
石川委員	チャレボラのボランティア先にも子育てサロンはある。 過去にはその経験を経て、将来先生になると言ってくれた子もいた。きっと、そういう活動は繋がっているのだと思う。
牧岡委員	初めてあんな小さい子と一緒に遊べたことがすごく楽しかったという感想もあり、そういう場面がなかなかないので、良い機会になっていると思う。また、保育園の出来事だが、中学生が体験に来て、終わった後にそのお世話になった子どもたちが、先生に私も中学生になったら来てあげるからねと言っていたそうで、分かりやすいモデルが見えて、双方にいい意味をもたらしていると思う。 サロンの立ち上げも重要だけど、地元の子どもたちが関わるなんていう仕掛けもありかなと思う。 それから、市政だよりとこのチラシだけでこんなに子育てサロンに来たのが驚いた。

山木委員	確か 10 月 16 日にオープンするというので、うちのサロンに来て、どういう風にやるのか、流れを勉強しにきた。うちはフリーで来るものは拒まずという形でやっているのでも 0 人の時もあれば、2 組の時もあるし、20 組の時もある。でも、それは変化しても構わないという形で実施している。他のところはまちまちで、電話で予約をとっているところもある。ここはどういう形を取ったのか。
三ッ橋係長	子育てサロンすくすくに関しては LINE での事前申し込みをしている。毎回、満員状況になっている。事前の広報については、子育てサロンの方でチラシを作って、色々と配布していた。あとは、行政側としては、市政だよりへの掲載と子育てサロン一覧のチラシの中にまた追加して配り直し、広報をした。
牧岡委員	子育てサロンはどれくらいの頻度で実施しているところが多いのか。
山木委員	大体月 1 で実施している。 足りないところはうちで紹介もしている。あいせん児童家庭支援センターでも子育てサロンをやっていたりする。
牧岡委員	マイナスな言い方をしてしまうと、子育てサロンを点々と回っている親子も多かたりする。 一方でそこにも繋がらないでいる親子をどういう風に捕まえられるか。事故や事件が起きるのはつながりがどこにもない人だったりするので、その辺りをどう考えていくかは重要。
山木委員	この前、道で中国人の親子の方に「今、子育てサロンをやっているからどうですか」と声をかけたら入ってくれた。喜んで参加してくれて、次の月は、友達もつれてきてくれた。言葉は通じない部分もあったが、子ども同士、大人同士で十分コミュニケーションが取れていた。
平野委員	新しくできた池田町のサロン開設の様子取材し、1 月 1 日付発行の中央第 2 地区社協広報誌きずなに掲載する予定。ぜひご覧いただきたい。
牧岡委員	次回、ぜひそれを配っていただきたい。やっているものをどのようなルートで地域へ伝えるかということも大事。やっているというチラシのような広報とは全然また違う入り方になる。 つづいて、事業 57 についてはなにかあるか。
宮越委員	マンションで起きたことだが、ドアの前に新聞が 3 日間か 4 日間くらい畳んで置いてある部屋があった。その部屋に住んでいるのは 1 人暮らしのおばあさんで、買い物に行った時にすごく大変そうに、少しずつ食材をこぎ運び込むような姿を見たことがあった。 あまりよくない状況なのではないかと思ったが、私がそこでドアを叩くわけにいけないので、管理人さんをお願いして、色々探してみると、すぐ近所に親戚の方がいると分かり、その人を通して中に入ると倒れていた。倒れてから 3、4 日ほどたっていた。すぐ救急車を呼んだが、あの状態だともう病院から出られないのではないかと話を聞いて、身につまされる思いをした。 一命を取り留めたから良かったのか、本当にその人をもっと早く見つけてあげることができなかったのかと思った。見守り活動は行政や民間でも、協力してやっていると思うが、こういうこぼれてしまう場所はあるのだなと感じた。
山木委員	あのマンションには民生委員もいる。その方に連絡するとすぐ動いてくれる。
牧岡委員	異変を発見したときに誰に連絡をするのかも大事。
中島委員	包括に連絡をいただいても動けるかと思う。

宮越委員	<p>多分、その部屋の状況を見たのは私が最初ではないと思う。マンションに住む他の人たちも見ていると思うがその意識がなく、なかなか見守りには結びついていない。マンションの理事会以外に親睦会を作っているが、体力が落ちているため親睦会をやめようかという話がでている。見守りを含めた結びつきができればよいとは思っているが、みんな忙しくなかなか手が回っていない。</p>
牧岡委員	<p>地域包括ケアシステムの学習の中で、発見する目を鍛えていくことは重要で、普段なんとなく目にしているも、素通りしてしまうようなことでも、そういう体験の話を知ると、「あれ？」と思うようになる。</p> <p>宮越委員はいろいろな活動されているから、3日間も新聞が溜まれば、「あれ？」という風に目が行く。そうでなければ、新聞が「随分溜まってるな」ぐらいで終わってしまうというのは大きいと思う。</p> <p>同じマンションの人にお弁当を届けに行ったらいなかったという連絡が来て、管理人は中には入れず、その人の息子になんとか連絡を取ったら、病院にいつていることがわかり、それで事なきを得たが、異変を見つけたときにどこに向かって発信できるかが重要。まずは包括支援センターでいいのか。</p>
中島委員	<p>包括はいろいろと相談をいただいている。新聞が溜まっているという連絡を住人の方からいただいたり、病院からも、ここ1週間病院に来ていないため、安否確認に行ってほしいということで、訪問して状況確認しにしばしば行ったりしている。無事だったケースもあれば、残念ながらというケースもあった。</p>
宮越委員	<p>ドアを開けて中にはいることもできるのか。</p>
中島委員	<p>ドアを壊してしまうと弁償をしなくてはならない場合もあるので、まず、救急隊を呼んでドアを壊しても良いか等の確認や行政にも確認を取り、救急隊を呼ぼうということになると、ドア壊すケースもあれば、大家さんが出てきて鍵を開けていただくケースや警察を呼ぶなどさまざまなケースがある。</p>
宮越委員	<p>包括には家の中に入る権限はあるのか。</p>
中島委員	<p>権限はない。私たちも知らないお宅には立ち入れないので、入る時は警察の方とかにお願いしている。</p>
牧岡委員	<p>こういうことをいろんなところで発信をして、誰でも見守りができることを知ってもらう必要がある。地域包括ケアシステムについて話すと、そういうのがあるのねと他人事として受け止めてしまいがちなので、もしそのような状況に出会った時に、あそこへ連絡すればよいのかというような受け止め方ができるような話し方をしていく必要があると思う。</p>
山木委員	<p>今年度は75歳以上の方の家に伺って状況を確認する見守りの全件調査をおこなう。3年前に調べた人がいるかわからないためそういう調査を含めて行う。今年度は少し動きが遅れており、我々が動くのは来年の2月頃。</p>
飯嶋委員	<p>個人情報の壁もそうですし、ここに住んでいるということをオープンしたくない方も障害によってはあるので、なかなか見守りの目で発見に繋がるというところが、難しいかなと思いつながら聞いていた。</p> <p>この間たまたま訪問の帰りに道端で倒れている人を介抱している女性を見かけた。倒れている方は高齢者で所持品等から、おそらく生活保護を受けている方だろうというのがわかったため、川崎区役所の保護課に連絡をして、救急車呼んでいいかという相談をしたことがあった。通り過ぎて行ってしまう人たちが大勢いる中で、ちょうど寒くなってくる時間帯でもあったので、ほっておいたら大事に至ったこともあったかもしれないなと思った。</p>

宮田委員	気になる人がいれば連絡を取ったりもするが、忙しくてあまりできていない状況。
牧岡委員	障害の分野も含めて見守り活動については考えていかななくてはいけないと思う。 続いて、事業64について、山木委員に状況をお聞きしたい。
山木委員	田島健康福祉ステーションから今年の3月頃に、田島地区には独居高齢者、特に男性が多く、ひきこもりがちになっているため、どうしたら外に引き出せるか対応を一緒に考えてほしいという話があり、桜寿園地域包括支援センターを引き入れて、包括と行政、民生委員の役員で話し合った。その中で昔田島でカレーを配ったことがあるという話がでて、そのような活動がいいのではないかなとなった。カレーを作るとなるとお金がかかるが、予算がないため、田島地区社協に相談したところ、予算立てはしていなかったが、参加費を徴収するという条件付きで了承いただいた。 その後、田島地区社協の婦人部（調理部隊）と福祉部を入れて11月12日に田島、12月9日の桜本の2回実施した。田島社協の方から8万円の予算が支給され、約2万3000円の支出で実施ができた。 田島地区社協からも、こういう活動はいいものだから今後もやってもいいと言っている。来年度は5月の社協総会時提案して、ちょっと予算立てをする。回数的には4半期に1回ほどを予定。
牧岡委員	当日同席したが、食べながら毎週やってよ、毎月やってよという声があった。 印象的だったのは、早く来て座って喋っていたのは男性陣だった。男性が2つのテーブルに4人か3人ぐらいで座って、出来上がるのを待っているときにおしゃべりが始まっていた。あの景色は会食会ではない。会食会は女性の数が圧倒的で、男性は隅に1人ポツンといることが多い。 また、インタビューをしていると1人の女性が5年前に夫が亡くなり夜が寂しいという話をしてくれた。そのような話を話せる場面が必要なんだろうなという風に思った。1人でいたら、それさえも話せないで自分の中に飲み込んでしまうが、あのような場でいろいろな人たちが来て、一緒に座って食べながら話を聞いてくれる瞬間は大事にしたい。 それにはご馳走がこうあるよりも、カレーだけがあつてあとはお喋りの時間になっていくのが丁度良い。婦人部の方などが中へ入って、ちょこちょこ声をかけてもらえるのがすごくいいと思った。
山木委員	その地区の婦人部なので、顔見知りが多い。桜本については、本来の目的である1人暮らしの男性の方がいっぱい来てくれていたので、かなり成功してると思う。田島は若干女性の方が多いので、もう少し工夫してやらないといけないかと思う。
牧岡委員	私がヒアリングした10人のうち7人が1人暮らしだった。1人暮らしの人にはいい場面、場所になっている。田島地区社協でお金を出しているが、来ている人の中には大師や大島に住んでいる人が何人かいた。お互い地域の地区社協と調整をして、やっている活動が波になって周りに広がっていくとなお良い。四半期に1度行うと言っていたが、その時期をずらして、田島がこの日にやるから、大島がこの日にやるというような形で振り分けてもいいのかなと思う。 その他に同じような試み等の情報があれば共有していただきたい。
中島委員	一緒に食事をするというのはコミュニケーションが取れてとても良いと思っている。川崎ラシクルの生活支援コーディネーターがマルシェを開いており、その中で障害のある方が作っているパンやクッキーを販売しており、地域の方が喜んでいいるのを聞いたので、同じようなことを生活支援コーディネーターと共催でしおんの会館でも実施する予定。旭町としおんの会館と同じイベントをやっているが、明らかに旭町に近い利用者さんでも、しおんの方のイベントに参加したいという方がいる。なぜか

	<p>と言うと、終わった後にみんなでランチや買い物に行くという話をしていた。他にも、体操終わった後2時間ぐらいみんなでランチして帰っている話も聞いた。横の繋がりを作るためには、食という手法ははてっとり早いし、いい活動なのかなと思う。</p>
牧岡委員	食が結ぶ。話が少し変わるが、こども食堂は川崎区にはどれくらいあるのか。
早川課長	実数は把握できていない。
牧岡委員	まちなかを見ていると、小さいお店などでもやっていたりして、驚くことがある。最近是非常に増えてきたなという感覚がある。
早川課長	こども食堂に明確な定義はないが、お子さんが中心に来るところもあれば、カレーサロンのように、高齢者や子ども等年代を無理に特定しないものもよいのかなと思う。
宮越委員	社会福祉協議会が発行している子どもの居場所活動紹介にもこども食堂が載っていた。その中には7, 8カ所くらいあった気がするが。
石川委員	掲載しているが全部ではない。市内の登録していただいている食堂を掲載しており、PDFをホームページに載せている。
宮越委員	食事会をやっている情報が目につくと、ここでこども食堂をやるのであればこの曜日に行ってみるだとか、普段孤立している人やそういうものを求めている人たちにとっては、とても良い情報提供になる。
牧岡委員	臨港病院の周りだけで、こども食堂を4カ所くらい見つけた。看板を立てて、ちょっとしたお店や喫茶店、居酒屋でもやっていた。無理して繋ぐことはないが、繋げる必要のある人は繋がられると良いと思ったので情報を共有いただいた。全体で他にどこにあるか。
平野委員	<p>事業ナンバー25について関連することがある。</p> <p>私が住んでいるマンションは140世帯で、敷地の半分は緑地。その緑地をマンションの有志ボランティアで整理している。この過程で公園センターと繋がりがあり、多分この活動から出た花だと思うが、公園センターから受け取り、緑地に移植するような活動があった。</p>
牧岡委員	<p>鋼管通2丁目では、四角いプランターを受けてくれる家庭の塀にかけてもらう活動をしている。最近ちょっと資金が厳しくなっていて、枯れる前に変えたいと思っているが、お金がなかなか続かない。</p> <p>大島小学校はバス停の前2カ所に、自分たちで作った花を植えている。また、最近小学4年生、5年生が公園の掃除をしている。ある小学校ではこんなにゴミが公園にいっぱいあるとは思わなかったという感想があった。</p> <p>学校の先生と子どもたちが頑張っていると思うが、地域に声をかけて一緒に活動ができれば違う大きな枠になっていくのかなと思う。</p>
山木委員	<p>区の民児協の方でそろそろ冬の長期休みになるため、その前にみんなのごはんを開催する。今、各学校の方には申し込みのqrコードを配布している。</p> <p>見に来ていただければと思う。</p>
議事(2) 地域づくり等検討会の報告について	
事務局(三ッ橋)	<p>議事2について説明。</p> <p>(2) 地域づくり等検討会の報告について</p> <p>【資料2】</p>
山木委員	田島と小田の繋がりが薄いのは確か。線路を挟んでいるのがよくない。

<p>牧岡委員</p>	<p>歴史的にも違う。川崎市と言えば大師もちがう。 こういった作業をその地域の人たちとも共有して、確かめるような場をこの先設けられるといいと思っている。何年も前になるが、鶴見でワークショップがあり、そのワークショップにはありとあらゆる行政も参加するものだった。 清掃員や住民票の発行関係の職員など、様々な職種の方がグループになって、まちづくりの議論を一緒にした。清掃の事務所の方が入っていたグループは、町の環境と合わせてごみの収集等の議論が深まっていく等、それぞれのグループにカラーが出ていた。せっかく横断して作業しているのであれば、このようなものを土台に出しながら、地域と共有するようなステージもこの先考えられないか。</p>
<p>早川課長</p>	<p>様々な課題を地域と話し合う場は他にもあり、例えば避難所運営会議や地域デザイン会議、この場もまさにそういった場面なので、ご提案のよう意見交換はある程度行えているという認識ではあるが、今回のこの会議に地域の方に入っていただくというのも一つのアイデアとしてはあり得るので、来年度以降の検討としたい。 今回は、政策横断的に係長職が集まり、地域の情報を持ち寄り議論した。いろいろな分野の人間が参加する形でグループワークをすると予測不可能な話につながり面白みがあり、知らなかったことを知る場としてはすごくいい機会となったが、その一方で話が散漫になる懸念もあり、実際に今回もその嫌いはあったため、今後は、高齢者の課題や子育て支援等、少しテーマを絞って議論できないかなとも考えている。</p>
<p>宮越委員</p>	<p>先ほども紹介したが、私の活動をどのようにみんなに伝えるかということを手を悩んでいる。ペーパーレスに向かっていくということは、時代の流れからすれば妥当だと思うが、子どもたちに習慣づけられていないデジタルツールに移行し、積極的に情報を取りに行ってもらうのはなかなかハードルが高いかと思う。そのツールが落ち着いていないところに、いきなりペーパーレスと言われると、私らの活動の手足をもぎとられるような思い。 お配りしたらしんぱんの一面にあるが、これだけの人数の子どもたちが夏に大自然の中で3泊4日のキャンプをした。参加した子たちはすごく元気になっていて、こういうものを子どもたちが潜在的に求めているのではないかと感じた。 しかし、この募集案内をするときに、イベントアプリがあるから、それを見て応募しと言っても、発信さえうまくできていない状態だと思う。 去年は、チラシを見て連絡をくれた子が多く、定員40名のところ60名程度が応募してくれた。 子どもたちへのアクセスについて、子どもたちに情報を伝える方法はどうしてもペーパーがまだ有効だと思う。幸区の市民館ジャックというイベントでは2000人を超える人たちが来たが、その時のアンケートで何の情報を見てきたかという質問に、500人ぐらいがチラシを見てきたと回答していた。イベントアプリを見てきたという人はたった3人だった。そういう現状を無視して、いきなりペーパーレスにするのは早計すぎたのではないかと思う。学校の先生の負担をなるべく軽減しようという配慮は、私も配りやすく付箋をつけたりしていた。 デジタルの社会になることは明らかなので、この先何かの行事をやるときには、来た子たちのリピーターを増やしていくというやり方はこれからやっていこうと思っている。 LINEなどを使うやり方はよくあるが、私自身LINEの仕組みがあまりよくわかっておらず、習熟していないのでそこはもっと私らも頑張らないとならないと思う。そういう時は、中学生と会った時にLINEやスマホに使い方等を聞いている。聞くと、喜んで教えると言ってくれる。こういう風に若い人たちにも応援してもらおうような形で、高</p>

	<p>齢者がデジタルについていくような流れも作っていきたい。まだまだそれがついていけない時に、いきなりこれやめてくださいと言われてしまうと、本当にそこで終わってしまう。</p> <p>みんなのごはんもチラシを撒いてるのか。</p>
山木委員	撒いているが、学校に配るだけ。学校には配ってくださいというだけしかない。
牧岡委員	<p>発信する側はなかなか難しい。それからもう1つは、受信している状態がわかりにくくなるのが問題。</p> <p>このワークショップには大いに期待している。ただ、行政は異動があるからそこが繋がっていかない部分もある。</p> <p>続いて、ソーシャルデザインセンターと地域デザイン会議について解説いただけるか。</p>
(参考) ソーシャルデザインセンターと地域デザイン会議の違い	
成沢課長	<p>参考資料について説明。</p> <p>ソーシャルデザインセンターというのは、いろいろな活動をしている人たちの繋ぎの場である。元々コミュニティ施策を川崎市が進めており、地域包括ケアや防災の取組を進める中で、地域の中で繋がりを作り、人と人が繋がり、顔見知りの関係をどれだけ作っていけるかということが重要視されている。能登の大地震でも、人の繋がりが大事だったと言われているように何かあった時に助け合える関係性を作っていく必要がある。</p> <p>何で繋がるのが良いか考えた時に、自分の好きなことや楽しいことで仲間をつくって繋がれる場（コミュニティ施策でいう「まちのひろば」）を作る仕組みとして、ソーシャルデザインセンターが設立された。</p> <p>ただ、センターだからといって建物があり、そこに人が常駐して何かやっているということではなく、いろんな人たちを繋ぐための機能だという風に考えていただきたい。こんなことがやりたいなと、1人でも2人でも3人でも、何か地域の中で活動がしたいなと思ったら、ソーシャルデザインセンターの事務局に相談していただくと、こんな風にはできるのではないかと一緒に考えることができる。そこにはコアメンバーやサポートメンバーとして参画している団体がいるため、様々な相談にのることができる。また、わずかながら、1回あたり5万円、年2回まで、年間最大10万円までの助成金がある。</p> <p>そういったものを活用して、地域での活動を行うことで、いろんな人たちが繋がり、まちが元気になっていくことを目指している。</p> <p>いわゆる自分たちで活動していくためのツールだという風にお考えいただければと思う。</p> <p>2006年から、6期12年間にわたって区民会議というのが行われていた。区民会議は、自治基本条例に基づいて行っていたが、地域デザイン会議も位置付け的には自治基本条例上の区民会議であり、行政が地域課題の解決のためにいろいろな区民の方々と意見交換をするための仕組み。</p> <p>行政側から地域の皆様に投げかけをして意見をもらったり、一緒に課題の解決策を考えたりする。SDCが自分たちの活動を生み出していくものであることに対して、地域デザイン会議は、区民の意見を聞き、一緒に考えながら地域の課題解決策を考えていこうという場となっている。参加者はテーマに合わせて呼ぶ人を変える予定。今年度実施した「区役所での待ち時間の過ごし方」については、無作為抽出で、一般市民の方にもご参加いただき、ワークショップ形式で自由に意見を言っていた。来</p>

	年度、川崎市の総合計画が改定される予定のため、そういったものへの意見の反映を目的にこの2年間はやっていきたいと考えている。
牧岡委員	実際関わってみるとこの動きがどう違うか伝わりやすいと思う。 今ここに関わってる人いるのか。今日は欠席だが、渡邊先生くらいか。
成沢課長	渡邊先生は富士見・中島SDCに関わっていただいております、大変お世話になっている。
議事（3）情報交換	
飯嶋委員	福祉分野と障害福祉分野との交流会のような会（「福祉でつながる地元交流会」という名称）が社協と福祉施設協会が主催で年に1度開催されている。民生委員も出席しており、山木委員も参加されていた。 2年ほど前までは全市で1か所1回やっていたが、区ごとに集まらないと話ができなというところから、去年から各区でやり始めた。今年は2年目で、施設や通所施設の方々がメインに民生委員たちとグループワークのような形で話し合いや情報交換をしている。 私たち障害者相談支援センターも呼ばれるようになって2年目だが、相談支援センターがあるんだねと言われることが多い。私たちもどんどん出て行って話をしなくてはならないなと思った。また、民生委員から障害のある方を抱えている家庭は、地域の中でも孤立していたり、うまく周りの方たちと交流できなかったり、それを拒んでいたりというような状況で生活されている方も結構多く、見えにくいという課題をお聞きした。すごく気にかけてくださっているということが、お話を聞いていて伝わった。まず、障害福祉の私たちが、障害のあるご本人やご家族と繋がり、その繋がっている私たちと民生委員が繋がることで、繋がりを広めていく必要があることを改めて感じた。新聞が溜まっていた家の話があったが、実は、重度の障害のあるお子さんとお母さんの2人暮らしのお家に訪ねるとお母さんが亡くなっている傍らでお子さんがいたということがあった。お子さんといっても、30代40代の方。川崎区内でも先ほどの見守りの目に私たちが繋がることで、少しでも減らせたいと思っている。
牧岡委員	私たちがまず地域と繋がり、皆さんと繋がってもらおう。その方たちも地域の中で暮らしているので、少しでも目に触れていただき、どこでどう暮らしているかわからないというところから、少しでも目に見える形で何かできたら良い。
石川委員	区社協では11月に福祉まつりを開催した。主催者発表は1000人となっており、多くの方にご参加いただいた。教育文化会館自体が緑化フェアの関係で部屋が使えないところもあったが、その割に好評だった。昨年よりも地域の皆さんが、受付のところでもゲームをやってみたい等の提案をしてくださったので、参加者と交流する機会を多く作ることができ、そのような工夫がよかったのかなと思っている。 また、共同募金の関係でもお世話になっているが、年末助け合いで集めた支援金を、民生委員の力をお借りしてお配りしている。 お話の中にありましたように、みんなのごはんということで各地区社協や民生委員のお力をお借りしながら、町内会館等にて支援を始めている。ただ、1点気になることがあり、初めはどちらかというと生活に困った方への支援だったものが、最近は弱くなってしまっている。イベント的な意味合いが出てきてしまっているところがあるのかなと思っている。1つの場所によって100名を超える申し込みがある。 この間はもちつき大会をやってみて、ただ配るだけではなくその中で何かしら触れ合っていたり機会を設けながら進めている。まずは知ってもらうために触れ合ってもらおうことが一番大きい目的になってきているのかなと思う。 また、支援してもらったお米を渡しても、お米を炊くことができない子どもたちがい

	<p>るということで、炊飯器の使い方を教えながらおにぎりを作って、子どもたちの力でも食べられるよう、年に数回おにぎりキャラバンを行っている。それについても、地域の皆様のお力添えや高校生に協力してもらい、触れ合うことの手応えを感じていたところ。</p> <p>そういう活動をその場で終わらせることなく、他のあらゆる機関にご協力いただきながら、福祉のこころを育てていければと思っている。また、行政にも、私どものやるイベント等にお声がけし、一緒に地域ケアを進めている。</p>
小松委員	<p>私も 2010 年頃に民生委員をやっていたが、10 年前に降りている。しかし、未だに民生委員を引き継いでいると思われて話しかけられる。民生委員はうちの町内に 2 人必要だが、1 人しかいない状況。その 1 人の人が仕事をやりながらやっているからか、あまり活動ができていない。そのため、あの方が民生委員ですよと言って初めて知る人が多くいる。その民生委員は 5 年ぐらいやっているが、あまり知られていない。知られていないために、私が民生委員だと思ってなんでも私のところに相談がきてしまう。老人会として見守りをやっているため、民生委員と間違えられてしまうのかもしれない。</p> <p>うちの町内には 90 歳超える方が 26 名いる。26 名はなかなかすごい人数。</p> <p>この間、見守り活動で訪問した時にあったことだが、お茶を出すから上がってといわれて、お家に上がって 3 分くらいが経ったら臭いがして、臭いがした方を見に行くと、ポットをそのまま火にかけていた。認知症が進んでいたみたいで、慌てて包括の方に連絡した。</p> <p>見守り活動については民生委員の方もやっているが、手が足りない。我々老人会は昼間時間が若干あるため、様子を見にいたり、買い物している人を見て、あの人は買い物できているから大丈夫というような感じで、見守り活動を行っている。</p>
牧岡委員	見守り活動は何人くらいでやっているのか。
小松委員	<p>5 人でやっている。</p> <p>民生委員 1 人では大変なので、老人会が少し役割を担っている状況。</p>
寺崎委員	<p>今の話は、実は結構あるあるで、ポット事件は時折話を聞く。</p> <p>過去に 1 回だけ、家を全焼させてしまった方のその後の支援を包括の方と一緒にやったことがあった。本当にこの時期は怖いなと思っている。本日いろいろと出た見守りの話は以前からのテーマであると思っている。時々、包括の皆さんが個別に民生委員の方との顔合わせ企画等をしてくれるので、すごくありがたいなと思っている。そのような機会がないと 個別に繋がる機会が減多にない。個人情報に関係もあるため、どの段階でどういうルートで繋がったらいいのかという悩みはよく出てくる。包括の皆さんはうまく繋いでくれるので、繋がったらある程度任せていただく形になっている。ただ、フィードバックをどうしたらいいのかなと時々悩む。包括の皆さんや行政の方に地域の方と繋がった時に、直接流して良いのか。顔を合わせた時に話すことはできるが、オフィシャルなルートがなくその方その方によってルートが変わってしまうため、こちらが全部背負うわけでもなく、地域いろいろな機関の方に全て任せるともならないようにバランスも含めて、なかなか古くて新しいテーマだなという風に皆さんに話を聞いて、改めて痛感した。もう少し積極的に関わっていかないと、なかなかいい連携ができないのだろうなと感じた。</p>
平野委員	<p>2 つのことについて話させていただく。</p> <p>1 つは、リサイクルに関して、アルミ罐の価格が、コロナが始まる前に比べて 5 倍</p>

	<p>近く、1キロ250円にもなっている。70缶で、1キロ程度。持ち込みにはマンションの理事会、個人、いろいろな団体、最後にホームレスの方がくる。何を言いたいかというと、ホームレスの方の収入が増えていると考えられる。廃棄金属の高騰は当面続くと思われる。</p> <p>2つ目に関しましては、私事ですが、81歳になる。認知症や要介護になりたくない、いつまでも健康でゴルフや旅行をしたいと思っている。そこで、健康寿命を伸ばすために自分でしていることを1月1日に発行される中央第2地区社協だより「絆」に掲載する予定。</p> <p>発行されたら、次回の会議で配布させていただく。</p>
宮田委員	<p>日進町の米屋に行っているが、認知症で少し危ないのかなと思うおばあさんが1人で、どこかと繋いだ方がいいかもしれないと話している。</p> <p>11月の頭に、5キロの米を買いに来て、週の半ば15日ぐらいに、また5キロ買いに来たので、1人で5キロ食べられるのか聞いたが食べられると言って買っていった。</p>
牧岡委員	<p>それは早く繋いであげた方がいいのではないかな。</p> <p>やはり発見し、発見した時にどこへ発信するかが重要。</p>
宮越委員	<p>皆さんにお配りした広報誌の裏面にある冒険士の広場について、お話したい。</p> <p>私たちは、かねてから高津区にある夢パークのような子どもの居場所を川崎区に作りたいと思っていた。</p> <p>3年間続けてパークチャレンジということで、公園で子どもと一緒にその遊びを作るイベントをやったりしてアピールをしていた。ようやく大きくはないが拠点として富士見公園の一画に土の広場ができた。そこには幼児がどろんこ遊びできるように土の山だけ少しつくって、その他は何も置かないで、子どもたちと一緒に作って壊して作って壊すというようなことができるような遊び場にしたいと思っている。今、子どもたちの35万人近くが不登校になっており、小中高生が2年続けて500人を超えた人数が自殺している。</p> <p>子どもたちの元気が心配になるので、ここは元気回復の原っぱにしたいと思っている。</p> <p>冒険士の広場は富士見公園のはぐくみの里という畑があったところともう少し北側の方にエリアを広げてもらって、その部分をフェンスで囲んでいる。作りかけて危ない状態でもフェンスで閉じて帰れるっていうような環境になっているのでかなり創造的なことができるのではないかとおもっている。</p> <p>これから指定管理者と一緒にあって、子どもたちと一緒に面白い場にしていきたい。運営費がほとんどない状態で始まるので、皆さんにも応援していただきたいと思っている。</p> <p>実際に活動できるのは来年から。</p>
本橋委員	<p>地区長連の町内会の弱体化、うちでも1番下の若年層の会がなくなり、他の町内では老人会、青年会がなくなったところが渡田地区でも4つぐらいある。お年寄りが亡くなって売られた土地に建売のマンションがたくさん建ち街の風景が変わっている。新しく越してきた人はなかなか町内会に入っていない。体感では大体10軒建てて1家族入るか入らないかくらい。</p> <p>それで、お子さんがいる方に、会費は取らないからとりあえずイベント等に顔を出してというような形で底上げをしてくれないとまずいかなというような話はしている。そのような取り組みをしていかないと支障が出てくるかなと危惧している部分がある。</p>
山木委員	<p>昨日民児協として、大師高校へ行った。なぜかというと、ふれあい館の鈴木さんが学校で放課後カフェをやっていて、区社協の手嶋さんが民児協としてなにか協力できな</p>

	<p>いかということで、一旦見学に行った。</p> <p>区内 6 の地区民児協会長が見学に参加した。学校長からかなり生活がかなり厳しい子がいるという話や外国籍の方が増えているという話を聞いた。今はとくにベトナムの子がかなり多くなっているとのこと。</p> <p>昨日は、食料支援を兼ねるということだったので、お米 2 キロとカップ麺、お菓子、それからジュースも用意してあった。下校する生徒に声をかけて、必要な子は持って行ってくださいよと渡していた。</p> <p>担当地区は大師第 2 地区だったのでイシカワ会長に声をかけて学校と連絡を取り合うようにつないだ。</p> <p>食料の方も 30 分不足であつという間になくなった。</p> <p>うちの主任児童委員が、高校生にも子育てサロンに参加してほしいと言っていた。平日は授業があるので難しいから、夏休みに縁日風でやるのでそういう時のお手伝いしてもらえないか持ちかけようと思っている。</p> <p>一部市立高校生徒が参加した実績もあるので、連携を重ねられたなと思っている。</p>
中島委員	<p>去年、ケアマネから民生委員の仕事を知りたいという強い要望があり、中央地区の全民生委員さん集まっていたいただき、民生委員さんの仕事内容を紹介していただく等して交流会を開催した。</p> <p>認定員は、認定を受けてない方の最初の訪問で導入し、介護の認定を受けたらケアマネにバトンタッチをするため、この過程で民生委員との接点がなく、顔を合わせる事ができなかった。しかし、ケアマネとしては、自分の担当地域の民生委員の顔も知らないのはよくないため、こういう機会は定期的に持ってほしいという意見があった。包括としては、町内の方と介護保険事業所の方が、顔の見える関係でいることが困難ケースを解決するにあたって、防災や防犯対策にも良いと思っているので、定期的に地域ケア会議を開催している。その会議では防災や包括として色々苦戦しているゴミ屋敷等のテーマ等で自由に話し合っていた。今度は孤立化・孤独化していった人や孤独死の問題等についても話し合いたいと思っている。基本的にこちらでテーマを提示しているが、町内の問題等の直接関わることを話し合うので、皆さんからこういうことについて話し合いたいという意見が出るといいなと思って、アンケートを毎回取らせていただいているが、遠慮しているのか、なかなか意見をもらえていない。もっと皆さんから出たものについて、顔の見える関係で話し合いの機会を持っていけたらいいなと思っている。</p>
中山区長	<p>私からの情報提供および、皆さんに教えていただきたいことがある。</p> <p>12 月 1 日に川崎区で外国人をテーマに車座集会を実施した。区には 1 万 9600 人程度外国人が住んでいて、市内の外国人の 35 パーセントが川崎区に住んでいる。今回は区内でも人口数上位の中国・ベトナム・フィリピンの方にご参加いただいた。外国の方だけを集め、通訳を入れての車座というのは初めての試みだった。</p> <p>区としては外国の方にも地域の人と一緒に地域で繋がるにはどうしたら良いか、当事者はどのようにとらえているのかということを知りたいと思っていた。</p> <p>ただ、それだと漠然とした話し合いになってしまうので、防災という切り口から入ることにした。危機管理担当から、区でやっていることや、避難所についてご説明してから、それぞれの国ごとでグループワークをしていただき、防災マップで自分の家からその避難所まで見てもらう等、初歩のところから話をしてもらった。</p> <p>外国の方がどうやって外国人同士で繋がっているかもほとんど把握できておらず、なおさら外国の方と地域の方がそもそも繋がっているのかも把握できていな</p>

	<p>い。私も年中いろいろなところに行っているが、なかなか外国の方とは接点がない。車座で出た意見の中では、外国の方同士が繋がっているツールは国によって違うようで、中国の方のコミュニティみたいな繋がりはないとのこと。一方で、ベトナムやフィリピンの方はその国の中で繋がりがあるとのこと。</p> <p>ベトナムの方が言っていたのは、大師のあたりで、お母さんの会のグループがSNS上で繋がっていて、フィリピンはもう少し広域で繋がっていて地域で繋がるというよりは市外も含めて広域で繋がっていると話していた。</p> <p>また昨日は外国人市民代表者会議のワークショップにも参加したが、その中でもネットワークがなかなかないとのことだった。会場が中原区だったからか、繋がりとすると国際交流センターとの接点くらいとおっしゃっていた。あとはオンラインで国外の人とつながっているという話はあったが、市内で繋がっている方がなかなかいなかった。</p> <p>そこで、こういった福祉の現場の中で外国の方との接点が、仮にあるとすればどうやって繋がっているのか教えていただきたいと思っている。</p>
飯嶋委員	<p>利用者の中には障害のあるお子さんがいる中国籍のお母さんはいる。</p> <p>言葉の壁というか、福祉の用語は非常に難しく、福祉の制度も分かりづらいので苦労されていて、私たちの説明もあまりうまくいかない。他の相談支援センターの相談員がgoogle翻訳が非常に便利だと言っていた。</p>
宮越委員	<p>うちの夏のキャンプにも、バングラデシュの子が来た。回教だから豚肉系は食べられないということで、食事の提供が難しかった。</p> <p>子どもたちの中には、必ず何パーセントか外国に繋がる子はいる。</p>
中山区長	<p>区役所の学校連携の担当からも、小学校にも外国につながる生徒が本当に増えていて、言葉の壁もあり苦労もあると聞いている。また、外国人市民代表者会議の中では、「町内会」という用語が分からないという話があった。転入者向けに色々な情報を提供しており、その中に例えば町内会の勧誘チラシも入れているが、多言語になっていなかったりする。</p>
中島委員	<p>富士見のURはインドの方がすごく多いが、包括にはあまり相談がない。聞いたところ、お子さんがいる若い世代が多いとのこと。港町のリバリエの辺りは中国人が多いが、包括への相談は大体、日本語が堪能なお子さんたちが付き添ってきてくれるのでうちで翻訳機を使ったのは1回ぐらい。</p> <p>この間、宮前小学校の車椅子体験会に行ったところ、多言語が飛び交ってて、子どもの世代はとても多いなと感じた。</p>
牧岡委員	<p>私の関わっている町内会で、1年間、町会で毎月出している、町内会だよりを英語で出し続けたことがある。1年経って、ふりがな振ってくれば大丈夫と言ってきて、翻訳をやめたことがあった。その中にベトナムの方も何人か住んでおり、ゴミ出しが上手くできていなかったため、ごみの出し方についてのチラシをベトナムの言葉に全部翻訳して、解決したこともあった。そのような言葉の壁については国際交流センターやふれあい館等に応援を頼んで、解決するのも良いと思う。</p> <p>2019年の台風19号の時、避難所に日本語の分からない高齢者のフィリピンの方がいた状況があった。その時に、SNS上で外国語ができる知り合いに翻訳してもらって会話をしたことがある。</p> <p>また、学童保育でも保護者会で言葉が通じない親に困った時に、小学校の時に日本に来た高校生に通訳をお願いして、保護者会の時だけ来てもらう等そんな体験をいくつかした。</p>

	<p>つまり、日本に来て何年も経っている人たちを繋ぐことが重要。そのような方たちを社会資源というか力にするために、どこに住んでいるか等を私は財産として持っていて繋いでいる。それを持っているのは、この地域ではふれあい館。</p> <p>ふれあい館に力を貸してと言うと、繋ぎ役になってくれる。</p> <p>外国人同士の繋がりについては、先ほどおっしゃっていたようにフィリピンの方は結構広く、小田原とか長野、大阪の人とやり取りをしながら生活をしている。</p> <p>中国の方は、中国の方だけで数人で固まって暮らしているスタイルが私の周りには多い。</p> <p>困っていると言うが、大体みんななんとか解決しているというか、暮らせていているというのが私の実感。</p>
平野委員	<p>マンションに中華系シンガポールの方がいる。まだ 65 歳で、就業意欲がある年齢だが、就業ビザがないため就職ができない。</p> <p>そこで、グリーン緑地を整備するグリーンクラブに加入してもらい、週 3 回の活動で日本語でやり取りするため、彼の語学力も上がった。</p>
中山区長	<p>川崎区にも第 3 庁舎の 2 階に多文化共生プラザがあり国際交流や相談、支援の拠点があるので、広めていただけるとありがたい。</p>
事務局（早川課長）	<p>第 3 回会議は 3 月 18 日（火）14 時から、川崎区役所 10 階の会議室にて開催する予定である。委員の皆様には改めて通知をお送りする。</p>
事務局（田辺所長）	<p>（閉会の挨拶）</p> <p>本日は 2 時間という短い時間の中、様々な体験談やご意見をいただき有意義な時間になったかと思う。それでは、これをもって令和 6 年度第 2 回川崎区地域福祉計画推進会議を終了とする。</p>

以上